

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		桐塾 荘原教室				公表日	2025年 4月 1日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5				
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5				
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	5				
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。					
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5				
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	2	3	×：個人的に保護者へ開示しているが、全体には行っていない（3名）	HPにて、支援プログラムの内容を明記している。	
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5				
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	1	×：職員間で共有されているのは、配慮すべき点など。	教室での行事開催については、共通理解を持って実施している。	
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	1	4	×：アセスメントの状況は、個人によって異なる。担当の支援員の活動が統一されていないため、確認できているかは不明。標準化されたツールは用いていない。	事業の性格上、インフォーマルなアセスメントにならざるを得ないと思うので、今後支援員の視点の共有化を追求していきたい。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4	1	×：地域連携については、教室内にパンフレットや掲示はしているが、連携が取れていとは言えない。	地域連携については、地域でのSSTが人遊になった場合に実施している。これ以外の部分については、今後も施設側から積極的に働きかける必要があると思う。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	1	4	×：個別支援のため、行っていない。（2人）困った時には、他の支援員がサポートしてくれる。	疑問や立案に際しての困りごとが発生した場合には、週の会議の中でアドバイスが出来るようにしている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4	1	×：個別支援なので、固定化はしない。	他児に対して有効であったプログラムや教材については、共有できるようにしている。	

供 應	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	2	3	×：個別支援のため、行っていない。（2人）実施している。行事などで、年に数回実施している。	教室内のイベントを実施したり、避難訓練などの場合には、定例の打ち合わせなどで、内容を共有している。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	1	4	×：個別支援のため、行っていない。（4人）個別で実施している（2名）共有しなければならない事案が出た場合には、実施している。	毎週一回、支援員全員と打ち合わせを行い、その中で支援についての状況や質疑応答など、互いの悩みを共有し、解決に至る場を設けている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	2	3		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	4	1	×：地域連携は、行っていない。	買い物のOJTの際には、その店に事前に挨拶に行き、状況を説明した上で、理解と協力を求めている。
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5			
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		○：必要があれば、実施する。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		○：必要があれば、実施する。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4	1	○：必要があれば、実施する。学校とは、直接情報共有をしていない。保護者から、資料のコピーを頂く場合がある。	支援会議などで、学校との関わりを持つ場合がある。基本的には、保護者を介しての情報共有になる。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	1	○：幼保からの引き継ぎはない。	幼保からの引き継ぎはないが、先方から求められた場合には、対応をしている。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	1	○：教室長がやっている。卒室児に実施している。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	2	○：教室長同士の交流はある。	区の相談支援センターから、空き状況の問い合わせが月に一回ある。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	1	4		
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	1	4		
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	3	○：必要があれば、実施している。 ×：ペアトレは、未実施。	今年度末に、保護者向けに一年間の支援を振り返る会を開催予定。
機 構 の 運 営	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5			

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	2	3	○：必要があれば、実施している。 ×：個別支援のため、開催は難しい。	今年度末に、保護者向けに一年間の支援を振り返る会を開催予定。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	4		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5		○：利用開始時に、保護者に確認をしている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	2	×：食べ物の提供は、行っていない。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	1	×：安全計画は、今後実施予定。	安全計画は作成済であるが、支援員へ周知をして、保護者の方々にもご理解を得られるよう、文面を公開していく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		○：教室内の掲示板で周知している	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5			
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4	1	×：身体拘束は、行っていない。	身体拘束の研修を通して、「絶対にない」という意識を、支援員が持たないようにする。